

A 段落ごとの意味内容確認 （太字は解答に関わる部分）

導入部	身近な問題を考えることで、大きな問題へ発展させる手法
	アホウドリの死の意味 海洋汚染へ展開（海洋汚染がいたるところで進んでいる）
¶ 1	ミッドウェー環礁の位置 はるか北太平洋の真ん中 アホウドリの繁殖地
¶ 2	アホウドリの餌さがしの広大さ（ノンストップで3200キロ飛行 広大な餌場）
¶ 3	親鳥の餌の与え方は、飲み込んだものを子供のために吐き出して与える 異物の場合は吐き戻せないことがある
¶ 4	エサの中に歯ブラシが混じることがある 親鳥は吐き戻せない
¶ 5	アホウドリは浮いている軽石をエサと認識する習性がある（魚卵やついているため） この習性は、浮いているゴミにも適応される。 そのため、ひな鳥が死んでいるところに、腹に入ったゴミの山がある。
¶ 6	アホウドリが示すもの：消費文化（のゴミ）があらゆる水辺環境に広がっている。 さんご礁から極地方の氷の海まで。 ゆえにどんな生物も、どんな場所も無関係ということはない。
展開(本体)	海洋における問題点(論点)を考える
	「常識」と事実はこのように違う。しっかり事実を認識することが大事
¶ 7	アホウドリの例から他の海洋問題へ展開 事実はしばしば普通の考えにあわないことがある。
¶ 8	そうした（事実と常識があわない）例として次の例がある。 多くの人は、海洋生物への最大の害を原油流出考えているが、実は漁業である。
¶ 9	漁業は海洋生物を毎年8000万トン漁獲量がある。 しかし、これとは別に2000万トンもの必要としない魚、海鳥、海洋哺乳類、亀を船上に死んだままさらしておく。 コッド、さより、ツナ、スナッパ、グロウパ、さめなどの資源は捕りすぎによって大部分枯渇していている。有名な漁場はほとんど破綻したままである。
第10	漁獲量割り当ては、本来枯渇資源の魚を増やすものであるが、逆に今よりも1000万トンの漁獲量を保障している。 政府の補助を受けた船舶建造メーカーや船団は、漁業資源枯渇を加速させている。

第11	海洋汚染の大部分は船によるものではない。陸地からもたらされるもの。 シルト さんご礁やサケの遡上する川に 殺虫剤 川や海へ（ミッドウエーのアホウドリの細胞からもPCBが検出） 最大の沿岸汚染の原因 農場の動物のゴミ、化学肥料、人間の汚水 赤潮、有毒な藻を発生させる（酸素を奪うので、死の海になる） ミシシッピ川の例
¶ 12	養殖は天然魚への圧力を減じない。 天然魚をエサにするから・沿岸汚染が起きるから・湿地を汚すから・病気の温床になるから タイヤインドのえび養殖場は病気と汚染のために、10年で廃棄。
¶ 13	こうした問題が新たな環境問題になるのを避けるには、養殖に基準を設けるべき。 外来種の養殖をやめる（在来種絶滅、病気の輸入の元になるから） 開放水路（運河など）での魚の養殖もやめる（景観を損ねるから） 屋内養殖は容認可能（とりわけ草食性のティラピアなどがよい）
¶ 14	海洋の生物学的に豊かな範囲は陸地の豊かな地域よりも崩壊の危機にある。 大陸にはまだ、手付かずの地域があるが、大陸棚はほとんど船によって底引きのあとがついている。 例 ニューイングランドなどの有名な大陸棚はトロール船によって1年に4～8回、海底をこすられている。 米国国立海洋サンクチュアリはその名に値しない。 （商業、娯楽の釣り系やわな、しかけが許可されている）

結論部 解決方法の模索と試案提出

¶ 15	NZやフィリピンは海洋生物の蓄積を設定し、実際に海洋生物が回復している。
¶ 16	解決方法が現れ、人々の意識に変化。 大部分の人は海は、無限に食料を与えてくれたり、無制限の汚染を薄めてくれたり、無限のゴミを受け入れるという幻想を捨て始めている。 1996年 持続可能な漁業法を議会通過させた（漁業の捕りすぎを規制する法律） ということは、海洋生物を守るとは、ビジネス的によいことであるという認識を示すもの。 この法律のおかげで、ある種の魚は増え、アラスカ、フォークランド、オーストラリア、NZの船はアホウドリを殺さないように配慮を始めた。海がめはエビネットの抜け穴で救われるようになった。
¶ 17	海の未来はばば国際協調関係に依存している。（筆者の意見） 国連を通じて、世界の国々は大型の流し網を禁止し、責任を持たせる漁業条約を起草した。 30カ国の批准が必要だが、まだ25カ国のみ。 日本パッシング 漁業大国の中でも日本が協議に欠席。海に対して失礼な態度。 クロマグロ、クジラの例

ミッドウエーのアホウドリの中から見つかった１０９のプラスチックのうち１０８は日本からのもの。日本は海を守る点において、モラルを持つべきなのに。

¶ １８ 海洋生物保護を考え始める視点は、アホウドリにプラスチックでなく食料を与える未来像を描くこと。国連海洋汚染防止法

¶ １９ 私たちはゾーニング（区画分け）の概念を陸地から海に拡張すべきである。（筆者の主張）つまり、誰もが自由に使える海ではなくて、わな、針、糸を使って漁できる場所と野草生物のサンクチュアリを明確に区分分けすべき。

残りは比喩表現なので、同じことを繰り返しているだけ。無視。

¶ ２０ ４００年前に、詩人ジョン・ダンと言った。「人間は自分自身の中で完全に閉じた島であることはできない」といった。
ミッドウェーの歯ブラシを喉に詰まらせたアルバトロスの例は、私たちに no island is an island（完全に孤立した島は島ではない＝島といえどもつながっている）ということを教えてくれる。

（比喩）有限性の教訓は、限界の教訓だけでなく、可能性の教訓でもある。

（比喩）海では、less is truly more（より少ないということは、実はより多いということ）を意味する。（具体例）ゴミが少ない、生息地破壊が少ない、少ない魚を取るということは、今日では未来にもっと食料を（人間にとっても、野生生物にとっても）を意味する。

（比喩）アホウドリと同様に、海が私たちを必要とする以上に、私たちには海が必要である。

（つまり）海は人間や動物にとってなくてはならないものということ。

ちょっと我慢すれば、ちょっと協力すれば、ちょっと思いやりを持てば得られるであろう、すべての豊かさを収穫するに値するほど、私たちはこのことをよく理解するだろうか？

=これくらい、ちょっと考えればわかることなのに、どうしてわからない（日本のような）国があるのだろうか？ってこと。

B パラグラフ解析による構造分析

これを図示すると、次のような論理構造が見える。¶ はパラグラフを意味する。

１ 導入部 筆者が直接体験した身近な例（アホウドリ）の悲惨な例を示し、読者に共感を呼び起こす。

これはさらに２部構成に分解できる。

１.１ 事実の提示（¶ １～５）アホウドリというできるだけ目新しい共感を呼ぶ悲しく悲惨な出来事を提出

１.２ 導入部の結論（¶ ６） ゴミも生き物も海に遍在する。ゆえに個別に考えることは不可能。

（これは、¶ １９の筆者の意見「すべての国が例外なく協力すること」への伏線でもある）

（伏線＝最後に何かを主張するときに、有利なように前もって別件から証拠を出しておくこと）

２ 論証部 海への影響は、多くの人が考えているタンカーの原油漏れではなく、実際には次の３点である。

２.０（¶ ７） 論証部導入

アホウドリから海洋汚染へは、話題の飛躍があるので、ここで「飛躍すること」を読者にことわっている

２.１（¶ ８） 論証部１点目の主張

多く的人は、海洋生物への最大の害を原油流出考えているが、実は漁業である。

¶ ９～１０は支持文。

２.２（¶ １１）論証部２点目の主張

海洋汚染の大部分は船によるものではない。陸地からもたらされるもの。

¶ １１を支持するための支持文はこのパラグラフ中に具体例として述べられている。

２.３（¶ １２）論証部３点目の主張 養殖は天然魚への圧力を減じない。

¶ １３は、支持文。

２.４（¶ １４）論証部４点目の主張 陸地よりも海洋底のほうが、危機的状況にある。

トロール船と米国国立海洋サンクチュアリは具体例

３ 結論部

３.１（¶ １５～１６）結論部の導入 NZ やフィリピンの成功例

３.２（¶ １７） 筆者の主張１点目 国際協調の重要性

¶ １８は支持文

３.３（¶ １９） 筆者の主張２点目 海洋を２つにゾーニングしたら良いだろう

¶ ２０は支持文 偉人などの文言を持ってきて、それらしく補強している。

¶ ２０の効果について

文章全体が主張でおわることなく、徐々に気分を落ち着かせる効果あり。

プロローグ（アホウドリ） テーマ（筆者の主張） エピローグ（ジョン・ダンの警句）と構成した。

C 解答に至るまでの考える道筋と解答例

設問A 何故、アホウドリを筆者は取り上げたか？その理由を 110 字以内で答えよ。

(考え方)

1 文中から絶対に離れないこと。by 出口ひろし(論理エンジンの著者 現代文カリスマ講師)

第6パラグラフにはっきりと、次のように書いてある。

The albatross's message: consumer culture permeates every watery point on the compass. From sun-bleached coral reefs to icy polar water, no place, no creature, remains apart.

これを捉えること。「アホウドリは私に(=筆者に)に**次のような**メッセージを伝えてくれている。」という風にコロンを「次のように」と具体例として読むこと。答えは、この文章を訳すことで解答可能。これを、第1パラから第5までをまとめようとするのは、あやまり。

2 「筆者がアホウドリを取り上げたのは、」と余白に書いて論理性を確保しておく。ただし、この部分は書かないで字数を抑えること。また読みながら余白に段落の要旨をメモすること。あとで論理分析が可能。by 安倍

3 自分の書く文の1文の長さをいつも意識すること。ちなみに、私の場合はほぼ50字前後。だから、110字ということは、2文程度でまとめる必要があるという、字数の感覚をつかむことが大事。なぜなら、答えの場所がほぼそれで逆に推測がつくこともある。by 安倍

(解答例)

海洋の広大な範囲を餌場とするこの鳥はプラスチックゴミを飲み込むという被害にあっている。このことで、消費文化が海洋の至るところに達しており、どんな場所もどんな生物も別々に考えることはできないことを主張する根拠としている。(109字)

設問B 筆者は多くの人は海についてあやまった考えをもっていると言っている。

設問B1 筆者の言う「誤った考え」を60字以内で書きなさい。

(考え方)

¶8、¶11、¶12、¶14の4つ段落の内容を過不足なくまとめること。60字だから、相当短く4点を言い切ること。ただし、文の最後に「というのが筆者の指摘する誤った考えである」と書いておくと、自分の文の論理性が保障される。また、誤りを指摘するだけでよく、正しい答えまで書く必要ない。「AではなくBだ。」の「Bだ。」は不要。

(解答例)

海洋生物への最大の害は原油流出。海洋汚染の主原因が船。養殖によって天然魚を保護できる。海底が陸地より荒らされていない。(59字)

設問B2 筆者が述べた以外のあなたが考える海の役割を日本語50字以内で書きなさい。

(考え方)

「あなたが考える海の役割」と言われて、「海水浴」「サーフィン」「砂遊び」という答えを要求しているのではない。ここでは、医学系論文なので、というよりそもそも「課題文が与えられてあるものは、課題文から離れてはいけない。かりに、あなたの考えを自由に述べよ。と言われても。」(駿台予備校 医学系小論文指導者講座での談話)ということなので、医学的に、生物学的に、もうちょっと広く考えれば理科的にあなたが考えた海の役割を述べることになる。50字と短いが2つか3つは欲しいところ。

筆者はすでに、海の役割として述べていることをまずチェックする必要あり。ただし、全部の段落を見返す必要はなく、¶16で「～などの海への過剰な幻想を捨て始めている」とあるので、そこをチェックすること。

¶2 動物へのエサ供給 ¶8 漁業(人間の食料供給) ¶12 養殖場所として

¶16 食料供給場所、汚染を薄める作用、ゴミを分解する機能の3つ

(解答例)

海流による高緯度地方と低緯度地方の温度差を均衡に保つための熱循環装置機能(36字)

陸地と比較して比熱が大きい太陽熱を吸収したり放熱したりするという地球の温度を一定幅に保つ機能(48時)

設問C 筆者が紹介したfish farmingの功罪をあなたの考えも入れて、100字以内で答えよ。

(考え方)

よい・悪いを言う前に、まず筆者の論点を整理することが最も大事。最初の1文(50字)で筆者の考えをまとめ、次の1文(50字)で自分の考えを理由も入れて**筆者の意見に賛成**、反対を述べること。なんら根拠もなく、賛成・反対と言わせようとしているのではない点に注意しよう。

そこで、**¶12を見てみると、「養殖は天然魚への圧力を減じない。」**なぜなら、「天然魚を大量にエサにするから・沿岸汚染が起きるから・湿地を汚すから・病気の温床になるから」と筆者は理由を挙げて主張している。無理に筆者の意見に反対をする必要はないが、ここで大事なことは自分の頭でthinkingしているかどうか採点の基準の第1ポイント。次にオリジナリティーがあるかどうか第2ポイント。

筆者は「養殖は原則的によくない」と言っているが、今日の日本で、養殖がなくなったら、一体どうなるだろうか？ ちょっと考えてみよう。養殖ハマチ、養殖カキ、養殖ノリ、養殖ギンザケ、養殖アワビ、養殖ウニ、、、国内産のこうしたものが全くなかったら、どうなるか？ あるいは、なくすことができるのかどうか？という視点で考えてみよう。すぐに「筆者の通り、養殖には反対です」と言えるだろうか？ この消費文化を続ける限りは、不可能であろう。

また、筆者も全面禁止ではなく、¶13でも特定環境(開放系水路でない閉鎖系水路)なら基準を作って認めてもよい、と述べてる点に留意すべき。

オリジナリティーという部分では筆者の主張と反対するのが、高得点。ただし、人文系・社会系の論文と異なり、

医系論文で筆者の意見に高校生が反対できることなど、あまりないと思ってよい。すると、ほとんど賛成することになるのだが、ただ賛成ではなく、別の（＝自己の）視点から考察が入っていることが絶対条件である。

さて、この場合は、設問は「筆者の紹介した fish farming の功罪を述べよ。それに対してあなたの考え（＝判断）も述べよ」と捉えると答えの所在が見えてくる。

（解答例）

筆者は養殖の問題点として、大量の天然魚のえさ、沿岸汚染の発生、湿地の破壊、病気の蔓延、在来種への影響の理由を挙げている。こうした問題を避けるには、やはり閉鎖水路での養殖へ切り替えるべきだろう。（９６字）

（別解）

筆者は養殖の問題点として大量の天然魚のえさ、沿岸汚染の発生、湿地の破壊、病気の蔓延、在来種への影響があるとしている。わが国でも鯉ヘルペスやブラックバス問題が発生していることから、正論と言える。（９６字）

設問D 本文の主題に関してあなたが知っている事例２例を１００字以内で書きなさい。

（考え方）

本文の主題とは何だろう？

「アホウドリを守る」だろうか？これは違う。これは具体例の１つ。具体例なら他にもカメもいるし海鳥もいる。

本文の主題とは、論証部（＝展開部）の４点でそれぞれ事例があげてあるもの。筆者の結論はテーマではない。テーマに対して、筆者の見解を添えた形をとっている。筆者が提供してくれているキーワードから事例を探し出してきて、リアルに書くこと。

- １ 漁業による海洋生物への害
- ２ 海洋汚染の大部分は陸地からもたらされるもの（捕りすぎ）
（シルト、殺虫剤などの毒性物質、農場の動物のゴミ、化学肥料、人間の汚水）
- ３ 養殖問題（沿岸汚染、湿地を汚す、病気の蔓延、外来種問題、景観問題）
- ４ 海洋底の荒廃（大陸棚は年に何度も引っかかっている）

さて、日ごろから新聞を読んで理科系の話題にキャッチアップしていかないと、書けない。今からでも遅くはない。新聞に目を通そう。そして自分の意見を考えておこう。海が遠い内陸に住んでいますからというのは理由にならない。高等教育を受ける大学生としての問題意識の欠如、医系職業への適正欠如と見なされる。

事例が２つで１００字なので、１例につき５０字１文で表現が目安。

（解答例）

世界最大のサンゴ礁の１つ言われる沖縄のサンゴ礁が、河川から流出する赤土によって壊滅状態になっている問題。

昨年のわが国で発生した養殖魚が大量に鯉ヘルペスというウイルス感染した問題

アザラシのタマちゃんが目に釣り針を引っ掛けたまま泳いでいた問題

外来種ブラックバスやブルーギルの大繁殖による在来種絶滅危惧問題

養殖ギンザケのイケスの下に堆積した食べ残しのエサが腐乱して海洋汚染を引き起こしている問題

これらに関しては、図説生物や図説地学に目を通しておくこと。特に生態系分野。

（補足）

環境問題をインターネットで検索するには、日本最大の環境ポータル NTT の環境 goo（因みに拙論も掲載されている）を利用するとよい。用語検索も便利。

他に、地元では私安倍が水環境を分担執筆した「いわて 環境学習館」（オンライン版 <http://www.web-ihatov.net/>）がジャンルごとに岩手の情報に特化していて身近な問題を考えるのに特にお勧めです。ぜひ、一度はご覧あれ。

設問E 本文の主題に関しての筆者の提案を５０字以内で書きなさい。

（考え方）¶ １７で「海の未来はほぼ国際協調関係に依存している」と述べており、また¶ １９で「私たちはゾーニング（区画分け）の概念を陸地から海に拡張すべきである。」と筆者の主張を述べている。しかし、次の文で具体的に述べているので、具体例をもってきてもよい。これを５０字でまとめること。長めの１文に相当する。

（解答例）

海の利用に関して国際協調の重要性と漁ができる場所と野草生物の保護地域の区分けという２つの提案（４６字）

設問F 本文の最後の下線部no island is an islandとはどういう意味であるか、８０字以内で書きなさい。

（考え方）

¶ ２０に限定して本文の意図をわかりやすく言い直すこと。つまり「ミッドウェーの歯ブラシを喉に詰まらせたアルバトロスの例は、私たちに no island is an island ということを教えてくれる。」とあるから、「完全に孤立した島は島ではない＝島といえどもつながっている」とこの文言自体は解釈できる。８０字ということはほぼ２文で表現すべき内容。

（解答例）

世界から完全に孤立した島は存在しないという意味で、アホウドリだけが住む島で起きている問題でも、世界の国々が問題の発生源になっていることを含意している。（７６字）